

令和4年度第2回富山県環境審議会 大気騒音振動専門部会議事要旨

1. 日 時 令和5年1月10日（火）午後2時～3時30分
2. 場 所 富山県民会館 701号室
3. 出席者 委 員：西川部会長、田中特別委員、青木専門員、成瀬専門員、
長谷川専門員、本江専門員、渡辺専門員
事務局：林生活環境文化部次長、中山環境保全課長ほか

4. 議 事

(1) 富山県大気環境計画の改定案について

事務局より資料1、資料2、参考資料1について説明した後、質疑が行われた。

(2) 富山県大気環境計画（改定案）に対する意見募集について

事務局より資料3について説明が行われた。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局より資料4について説明が行われた。

【意見・質疑応答】

○ 富山県大気環境計画の改定案について

（委員）

大気汚染についての苦情件数が良い方から数えて全国2位とのことだが、具体的にどのような苦情が出ているか。

（事務局）

昨年度は39件の苦情があり、このうち、およそ半分は野焼きに関する苦情であった。苦情件数全国最少を目指すにあたり、野焼きをいかに減らすかが鍵となるため、関係部局と連携しながら必要な対策に取り組んでまいりたい。

また、工場・事業場の煙に関する苦情も一定程度あるので、事業者と協力し、カーボンニュートラルの取組みとあわせて進めていくことにより、苦情件数を減らしていきたい。

（委員）

ガソリン車の台数を減らす目標について、単にガソリン車を減らし、電動車を増やすだけでは、全体として環境負荷が減らないのではないかと危惧している。雪国など富山県の実情を踏まえつつ、電動車の利点を活かした導入促進策が必要ではないか。

(委員)

日本は、電気自動車、水素自動車の普及が遅れていると感じるが、「ガソリン車の台数を平成 25 年度比 35%以上減」の目標について、雪国や山が多いなど富山県の実情を踏まえて達成可能な目標かどうか、その設定した数値の根拠を教えてください。

(事務局)

電動車の定義を電気自動車（EV）、燃料電池自動車（FCV）、プラグインハイブリッド車（PHEV）、ハイブリッド車（HV）とし、これらを除いたガソリン車の台数を 35%削減するという目標としている。数値は、モーダルシフト、物流の効率化、公共交通の利用への転移、人口減少による自然減等を加味して設定している。

富山県の実情を踏まえると、富山県は1世帯あたりの自動車保有台数が非常に多いという特徴があり、例えば2台以上保有している世帯は、うち1台を電動車に置き換えていただくという方向性もあると考えている。

(委員)

必要に応じて関係機関と連携していくとあるが、これまで関係機関とうまくいった具体的な例はあるか。

(事務局)

これまでも、環境とやま県民会議やエコドライブとやま推進協議会などにおいて、各団体と協議しながら連携した施策を進めている。

エコドライブを例に挙げると、エコドライブとやま推進協議会において進めているエコドライブ宣言の募集については、これまで県内の運転免許保有者のおよそ3分の1となる24万人以上が宣言するなど、取組みが広がってきていると感じている。

引き続き、関係団体と協議し、特に各団体の得意分野で連携しながら普及啓発を進めていくことが必要であると考えている。

(委員)

ウェルビーイングは人によってとらえ方が違うと思うが、理念を統一しておく必要があるのではないか。

(事務局)

ご指摘のとおり、人によってウェルビーイングのとらえ方は違うというのは認識している。本計画の目標に掲げている「きれいな大気環境の確保」は、様々なウェルビーイングを支える要素（土台）の部分をしっかり固めていくという趣旨である。

(部会長)

大気環境がきれいになることがウェルビーイングにどのように結びついていくのかという方向性を今後の計画期間の8年間で定めていけば良いと思う。

(委員)

エコドライブ宣言募集の取組みは他県ではあまりみられない良い取組みだと思う。交通安全にもつながるので、富山らしい取組みとしてもっと前面に出してはどうか。

(事務局)

ご意見を踏まえ、エコドライブとやま推進協議会の各団体と連携しながら、しっかりと普及啓発に取り組んでまいりたい。

(委員)

全体として非常に野心的でやる気がある計画だと思う。

一つ確認させていただきたいが、一斉メール配信システムについて、大気汚染緊急時の周知目的だけでなく、他の目的にも活用できるように設計すればどうか。

(事務局)

本システムは既に構築しており、大気汚染緊急時が発生した場合に、学校や福祉施設など約1,300の機関にメールで一斉に情報提供するものであるが、現状においても熱中症アラートが出た場合の周知にも活用している。

(委員)

資料2の12、13ページにある硫黄酸化物や窒素酸化物の排出量の予測について、船舶由来の排出量のみが増加する予測となっているが、入港量が増加する見込みということか。

(事務局)

現在、伏木富山港の利用を促進しているところであり、入港量が増えることを見越した目標となっている。

(委員)

環境教育の推進について、「環境楽習室エコ・ラボとやま」の見学・体験者数を増やすという指標はあるが、それ以外にもしっかりと取り組んでいただきたい。

(委員)

環境中の大気汚染物質の濃度はすでにかなり低くなっているのですが、これ以上減らすのは難しい状況である。今後はやはり環境教育が非常に重要になると思

う。

スターウォッチングなどの環境教育について、関係自治体や教育機関を巻き込んで、富山らしさを出しながら取り組んでいただきたい。

(事務局)

資料2の31ページの目標の中で、大気環境学習への参加人数を令和3年度398人から令和12年度3,000人へと大幅増加する目標を設定している。イベントの開催や情報提供などを通じ、しっかりと環境教育に取り組んでいきたい。

(委員)

富山市科学博物館で開催しているオンライン星空観察会は、参加者が結構多い。県外からの参加者もあり、富山県の星空のきれいさの宣伝にもなる。

(部会長)

デジタル技術の積極的な活用も本計画に盛り込まれているので、4年後の中間あるいは8年後の最終的な目標達成に向け、オンラインを含めて様々な手法を活用しながら取り組んでいただきたい。

(委員)

普及啓発活動だけではなく、環境科学センターにおける研究活動もしっかり進めていただきたい。研究活動があってこそその普及啓発活動だと思う。